

雜

錄

1932 年ルクセンブルグ鐵鋼業實績 (Iron & Coal Trades Review Feb, 3, 1933) ルクセンブルグの鐵鑛石、銑鐵及鋼の生産月額は 1931 年末に於て著しく低減せるが 1932 年中に於ては漸増の傾向に在つた、尤も年計に於ては前年に及ばない。

鐵鑛石の生産高は 1930 年に於て約 6,649,300 噸、1931 年に於て 4,764,900 噸であつたが昨 1932 年に於ては 3,214,993 噸に減じ即ち前年に比し約 32% を減じた、これは主として輸出の減退に基因せるものであるが、又ルクセンブルグ及白耳義の鐵鋼業者がロレーヌ鐵石を選んだことも其の一原因である。1932 年の銑鐵生産高は前年の 2,053,089 噸、1930 年の 2,472,908 噸に對し 1,958,930 噸を算し 1931 年の生産高より少ないこと僅かに 46% である、月産額に就て見るに 1 月は 149,590 噸であつたが 11 月には 180,993 噸、12 月には 171,645 噸と漸増を示した。一方鋼の生産高は 1931 年の 2,027,306 噸及び 1930 年の 2,269,892 噸に對し昨年は 1,955,665 噸であつた、月産額は銑鐵と同様 1 月には 145,639 噸と算したが 11 月には 178,734 噸に増進し 12 月には稍々減じて 169,839 噸に達した。生産品は殆んど全部鹽基性ベセマー鋼であつて平爐は年間を通し中絶の姿に在つた。傭役人員は 1 月の 20,854 人から 12 月には 17,820 人に減じた。財政状態は生産費及賃銀の低減と販賣價格の好轉に依つて 1931 年に比し良好な結果を齎らした。ルクセンブルグの鋼價は、同國の斯業が其の生産高の 95% までを輸出し居る關係上世界價格と共に變動した、7 月迄販賣價格は低落を辿つたが 8 月に至つてルクセンブルグ販賣シンジケートの活躍に依り復活し年末の價格は 1 月より高價であつた。(三宅)

1932 年佛蘭西壓延鋼材生産高 (Iron & Coal Trades Rev. March 3, 1933) 佛蘭西 1932 年の壓延鋼材生産高次の如し。

品 目	1932 年 噸	1931 年 噸	品 目	1932 年 噸	1931 年 噸
販賣用半製品	994,000	1,329,000	管 材	51,000	52,000
タイヤ	31,000	55,000	管	154,000	147,000
フォーデング	38,000	74,000	特殊棒鋼	114,000	152,000
軌 條	231,000	391,000	市場向棒鋼	1,375,000	1,926,000
枕 木	70,000	116,000	鋳 力 板	72,000	90,000
軌條附屬品	18,000	34,000	薄 板	568,000	569,000
チヨイスト及 大 形 物	510,000	692,000	厚 板	226,000	314,000
線 材	219,000	329,000	平 鋼	43,000	60,000
ワイヤー	145,000	175,000	壓延製品合計	4,070,000	5,470,000
フ ー プ	205,000	209,000			

1932 年合衆國鐵鑛石生産高、骸炭生産高と消費高並滿僉鑛石及鋳力板生産高 (Iron & Coal Trades Rev. March 3, 1933)

1、鐵鑛石——合衆國鑛山局の發表に依れば 1932 年合衆國の鐵鑛石採掘高は滿僉分 5% 以上を含む鐵石を除き約 9,588,000 英噸に達し前年に比し 69% を減ぜざるが、これは 1835 年以來の最少數字である、尙 1932 年に於ける山元鐵石の處分高は約 5,364,000 噸で前年に比し 81% の減少である。昨年の山元鐵石 1 噸當り平均價格は \$2.43 見當であつた、1931 年には \$2.60 であつた。

2、骸炭生産高と消費高——1932 年の合衆國骸炭生産高は大約 21,939,413 短噸と見積られ前年に比し 34.5% の減少を示した、これは

主として鑛鐵爐活動の減退に因るもので昨年の銑鐵生産高は 1931 年よりも 52.5% を減じたのであつた。副産物骸炭の生産高 21,166,913 噸、ビーハイブ骸炭の生産高 772,500 噸で、以上の合計中 8,711,448 噸 (39.1%) は鑛鐵爐に依つて消費されたものである。骸炭製造に消費された石炭は、副産物骸炭工場に於て 30,592,500 噸、ビーハイブ骸炭爐に於て 1,192,500 噸を算した。

3、滿僉鐵石——滿僉分 35% 以上を含む滿僉鐵石の 1932 年に於ける國內鑛山搬出高は 1931 年の 39,242 噸に對し約 17,000 噸を算したがこれは 1922 年以來の最少數字である。

4、鋳力板——1932 年合衆國の鋳力板生産高は合計 25,250,000 ベース箱を計上した、因に 1931 年は 34,050,000 箱、1930 年は 41,250,000 箱あつた。(三宅)

1932 年ザールの銑鐵、鋼塊及壓延鋼材生産高 (Iron & Coal Trades Rev., March 3, 1933) ザール地方 1932 年 12 月中の操業高爐數 17 基、銑鐵生産高 122,397 噸、鋼塊 134,438 噸で同年に於ける最高の月であつた、尙壓延鋼材の生産高は製品 90,465 噸、半製品 13,557 噸を算した、全年の銑鋼及鋼材の生産高次の如し、括弧内の數字は 1931 年の分を示す。

銑鐵 1,349,493 噸 (1,515,429) 内鹽基性 1,259,091 噸 (1,351,419) 鑄物銑及直接鑄物 90,402 噸 (164,010) 鋼塊 1,463,429 噸 (1,538,346) 内 1,078,193 噸 (1,116,276) は鹽基性ベセマー、376,291 噸 (407,553) は鹽基性平爐及電氣鋼で尙鑄物の生産高は合計 8,945 噸 (14,537) であつた。壓延鋼材の内販賣用半製品 124,332 噸 (135,481) 製品 994,447 噸 (1,113,762) 其の内譯次の如し。

鐵道材料 84,378 噸 (152,571) 大形物 120,753 噸 (147,251) 棒鋼及小形 352,721 噸 (354,962) フープ 80,790 噸 (76,458) 線材 134,325 噸 (132,834) 厚板及ユニバーサル平鋼 82,756 噸 (109,463) 中板薄板及鋳力板 93,081 噸 (93,170) チューブ 38,781 噸 (42,156) フォーデング 6,077 噸 (4,791) 其他の製品 780 噸。

1932 年世界のアルミニウム生産高 (Iron & Coal Trades Rev. March 10, 1933) 1932 年に於ける世界のアルミニウム生産高は概算 152,795 噸に達し之を 1931 年の生産高 230,433 噸に比すれば 34% の減少で 1923 年 (139,100 噸) 以來の最少數字である。國別生産高を示せば次の如くであつて括弧内は 1931 年の數字を示す。(三宅)

合衆國 47,575 噸 (80,533) 諸威 19,500 噸 (21,300) 加奈陀 17,800 噸 (30,950) 佛蘭西 14,110 噸 (24,400) 瑞典 13,820 噸 (16,000) 獨逸 13,765 噸 (26,750) 伊太利 13,200 噸 (11,500) 英國 8,825 噸 (15,000) 埃太利洪牙利 3,200 噸 (3,000) (三宅)

1932 年白耳義の鐵鋼業 (Iron & Coal Trades Rev. Jan. 27, 1933) 1932 年は恐らく白耳義製鋼業の歴史に轉向期を印するものと思惟せらる。價格は未曾有の最低記錄に慘落し財政と勞力の難件は其の頂點に到達せるのみならず斯業は其の最も有利な英國市場を喪失し且其他の重要な市場をも喪失せんとするの脅威に驅られたのであつた。英國の關稅、オッタワ協定の優先權、不安定な磅の爲替率等の諸結果を精確に見積ることは尙早なりとするも是等

の要素は將來世界の製鋼業並に市場に甚大な影響を及ぼすことは必定である、既に是等の要素は白耳義製鋼業者の見解を一變すると同時に獲得せる地盤を保持することに懸命の苦闘を演じつゝある彼等をして豫斷し難き状態に應ずる爲め彼等の組織を改變するの必要に迫らしめたのであつた。年初白耳義の製鋼業者は勇を鼓して事態に應戦する所あつたが然し年末に於ける戦の成果は疑はしきものであつた。

輸出の爲めに組織された斯業——茲に記憶して置かねばならぬことは、元來白耳義の製鋼業は輸出せんが爲めに樹立されたものである、其の國內取引は多くの海外市場が自儘勝手に半ば閉塞された現時に於てさへ其の生産高の僅かに $\frac{1}{2}$ 位に過ぎざるものである。低廉なる鐵道運賃、内國水路輸送費及勞力費の利便を有する白耳義の斯業は從來數年間外國貿易の競争場裡に於て特に有利な地歩を占めて居つたのである、加ふるに剩餘噸數を低價格に於て常に購入せんとする手近の英國自由市場から格別の援助を受け來つた。言ふまでもなく白耳義の製鋼業者は是等の利便を極力利用せるものであつて、1932年の最初數ヶ月間中に於ては白耳義の鋼價が世界の鋼價を決定せる程であつた、此れが爲め其他諸國の製鋼業者は大いに不平を鳴らしたものである、これ即ち白耳義の斯業が生産高の少きにも拘らず世界の製鋼業に伍して重要な地位を占め來つた所以である。然しながら此の地位も遂に保ち得なかつた、其他の大陸製鋼業者は白耳義の鋼價に追従し未曾有の競争を展開するに至つたのである、剩さへ鋼材價格の低廉なるにも拘らず需要の應ずるものなく此れが爲め價格は更に低下せざるを得なかつた。1932年の最初3ヶ月間中に於ては英國の商人及び消費者が關稅障壁の設置を見越して一切の鋼材を多量に買込んだものであつて、白耳義の製鋼業に取つては輝かしい事態の一であつた。

銑鐵生産高——價格の低廉と市場賣出しに困難あるにも係らず生産高は驚くべき高率を保持した、銑鐵の場合に於ては最初3ヶ月間の生産高は合計728,200噸即ち月242,750噸の率で1931年同期間の平均高より僅に月約11,000噸を減じたのみであつた、最初3ヶ月間中に於ける操業高爐數の平均は43基で前年同期間中の數と全く同一であつた。斯の如きは歐洲生産各國に於て多量の鹽基性並鑄物銑のストック存在せる點と價格が逐日低下しつゝあつた點とに鑑みれば一層不可思議とする所であつた。英國が多量の銑鐵を購入するであらうと云ふ見込は生産高が引續き高率を保持せる原因の一であつたと同時に英國が最初關稅を賦課すべき鐵鋼材から銑鐵を除外せることに此の見込は繋がれたものであつた、然るに此の期待は6月に至り全く裏切られた、即ち英國は同月から銑鐵にも10%の關稅を賦課することになつたがこの10%の關稅は從來賣込みつゝあつた英國の各地方に於ける白耳義銑鐵の競争力を剝奪するに充分であつた。爾來白耳義の生産高は著しく減少せるが磅爲替率の崩潰が對英販賣を殆んど不可能ならしめた9月以降は益々低減するに至つた。此の外銑鐵の生産を兼業する製鋼業者を極力傘下に集めた大陸鋼カルテルの影響も恐らく生産高減少の一原因を成すものであつた。第2・4半期に於ける生産高の月平均は238,375噸に落ちたが此の數字は世界の市場状態を考慮に入るときには尙H高率なるものであつた、然し操業高爐數の平均は39基に減じた。第3・4期に於ては著しき生産高の減少を示し操業高爐數の平均は33基に減じ生産高の月平均は200,233噸に落ちた、次いで最後の4半期に於ては11月に230,900噸の生産を示し6月以來の最高數字を記録した、尙最後3ヶ月の月平均生産高は12月分を概算して226,300噸

を算し操業高爐數は稍々減少した。

鋼生産高——白耳義の鋼生産高は他國の製鋼業者間に嫉妬の本を成すものであつた。年初、數ヶ月前に失敗せる大陸鋼カルテル改新問題が再び擡頭したが白耳義製鋼業者が其の割當額に不同意を唱へたるが爲め計畫は畫餅に歸した、其の結果鋼の生産は殆んど妨げらるゝ所なく持續した、最初3ヶ月間に於ける生産高は月平均242,575噸を算し銑鐵生産高より少ないこと200噸位であつた。不思議に均合つた此の銑鋼の生産高は次の第2・4半期に於ても均衡を持續し月平均の生産高は230,000噸で銑鐵の生産高より600噸大であつた。第3及第4・4半期に於ては此の近似性を稍々失つたがそれにしても數千噸の差に止まつた、第3・4半期に於ては減少し月平均203,630噸に減じたが第4・4半期に於ては再び増加し12月分を見積つて232,950噸に達した。

勞働爭議——製造業者は價格の低下に應じて生産費を切下ぐことに努力せる結果5月、日給25法以上を受くる職工の賃銀を5%引下げんことを主張するに至つた、此の提案は職工側の拒絶する所となつたが更に引下ぐべき賃銀の基礎を30法まで引上げて再度職工側の考慮を促した。6月白耳義の製鋼業は重大なる難件に當面し即ち英國關稅の影響を受ると同時に其の最上の市場たる印度支那、日本及南米等は財政難に依つて鋼の購入を中止するに至つた、加ふるに希臘の大量注文はこれ亦同國の財政難に依つて發送中止となつたが斯くの如き事情の下に於て炭坑夫の罷業はシャル、ロア地方製鋼職工の同情罷業を伴ふに至つた、政府の調停に依つて製鋼所は1週間以内に作業を再開せるも然し罷業は事態を一變し其儘年末に及んだ、賃銀は茲數ヶ月は引下げないと云ふ了解の上に爭議の落着を見たのであつた。

財政結果——財政結果は10月諸會社の貸借對照表が公表されてから判明せるが難件と闘つた製造業者苦惱の跡が見られる。Ougre-Marihaye 會社は前年の繰越金1,651,500法を以てして14,413,000法の殘高を示したが殆んど全部之を減債基金に振り向け無配當であつた。プロピテンス製鋼所は純益皆無で之れ亦無配當、Hainault 製鋼所は8,692,800法の缺損及びJohn Cockerill 製鋼所は5,866,000法の缺損を示し配當皆無であつた、Clabecq 會社は最も業績良好で配當に振り向け得べき24,148,200法の殘高を示して第一次及第二次配當を行つた、Sambre & Moselle 會社は28,861,500法の缺損を示しThy-le-chateau 會社は其の準備金から21,230,300法を繰入れた。以上の例は秋季に於ける白耳義製鋼所の財政状態を指示するものである(以上の貸借對照表は1932年4月30日又は6月30日に終る年度の分)斯の如き製鋼所の事態は、白耳義及歐洲全般の各種製鋼業者團體間に其の逆境から刺戟されて起つた友誼的精神に依つて緩和された、即ち此の親善的精神の發露は9月早々相場急騰を招來し同時に金相場は安定するに至つた、然しながら磅爲替率の弱氣は白耳義の鋼價に變動を惹起したのであつた、然しこれは白耳義の製鋼業者に其の責任を負はすべきものではない。斯の如き事情の下に於て白耳義の製鋼業者は價格の低準なるにも係らず或は其の低準なる故を以て或は又英國市場の大部分を喪失せるにも拘らず其の輸出噸數を驚くべき程度に保持した。英國は1931年に於て白耳義の各種鋼材1,075,550噸を1932年に於ては917,250噸を購入した(第1表)。年間の輸出減は僅に158,300噸に止まつた、然しこれは關稅賦課前の年初に於て英國が異常の噸數を輸入せるに因るものである、尙白耳義の對世界輸出貿易合計は前年に比し

454,000 噸を減したるも一般的の不況に想到するときは此の位の減少を指して不良な結果とは云はれまい。

第1表 白耳義及ルクセンブルクの鐵鋼輸出表
(1932 年と 1931 年との比較) 單位佛蘭

品 目	輸出高合計		
	1932 年	1931 年	1931 年
銑 鐵	1,820	34,944	70,139
鑄 物	428	15,826	27,917
ブルーム、ビレット	463,628	578,129	519,877
特殊棒	1,067	4,754	7,502
ブ ー プ	51,724	164,399	148,748
ダ ヨ イ ス ト	88,004	453,528	503,682
レ ー ル	10,009	56,503	109,141
厚板、薄板	85,521	501,516	554,554
鐵 力 板	—	66,284	79,932
ワ イ ヤ ー	23,836	274,637	315,196
チ ュ ー プ	1,411	9,046	12,590
ネール、ボルト	16,450	59,863	106,752
其 他	173,355	1,070,926	1,208,067
屑	—	114,425	192,920
1932 年 合計	917,253	3,404,780	—
1931 年 合計	1,075,548	—	3,857,017

備考 1932 年 12 月分は見積。

第2表 白耳義鋼材の輸出價格 (F. O. B.)

シートバー及マーチャントバーの月末相當兩年の比較

	1932 年			1931 年		
	シ ー ト	マ ー チ ャ ン ト	バ ー	シ ー ト	マ ー チ ャ ン ト	バ ー
1 月	3 11 0	3 17 0	3 12 0	3 12 0	3 19 6	3 18 0
2 月	3 7 6	3 13 0	3 8 0	3 18 0	3 16 0	3 16 0
3 月	3 2 0	3 5 0	3 7 6	3 8 0	3 11 0	3 9 0
4 月	2 16 0	3 0 0	3 8 0	3 4 0	3 9 6	3 5 0
5 月	2 13 6	2 19 0	3 4 0	3 15 0	3 18 0	3 18 0
6 月	2 12 0	2 16 0	3 4 6	3 16 0	3 18 0	3 18 0
7 月	2 11 6	2 19 0	3 7 0	3 16 0	3 18 0	3 18 0
8 月	2 12 6	3 1 6	3 1 0	3 16 0	3 18 0	3 18 0
* 9 月	2 16 6	3 8 0	4 15 0	3 16 0	3 18 0	3 18 0
10 月	3 6 3	4 4 6	3 16 0	3 16 0	3 18 0	3 18 0
11 月	—	—	3 12 0	3 16 0	3 18 0	3 18 0
12 月	—	—	3 9 6	3 16 0	3 18 0	3 18 0

* 印金本位制離脱。

(M. M. 生譯)

1932 年西班牙の鐵鋼業 (Iron & Coal Trades Rev.

Jan. 27, 1933.) 1932 年に於ける西班牙の貿易は他の歐洲各國の事情と同様深刻な不況を呈し重工業の生産高は著しい減少を示した。1932 年は新政體の第二年で政局尙定まらざるが爲め更に政治的紛亂勃發の危惧なしとせざる事態に在つた。現政府の社會黨大臣は同黨政策の多くの計畫を實行した、其の結果社會福利費の支出に夥しい増加を來たし諸會社の重荷は甚大なるものがあつた。社會法の一として商工業に従事する労働者に對し年 7 日の有給休暇が與へらるゝことになつたが本法は 1932 年 11 月 21 日から實施されたのであつた。政府は公共事業方面に大節約を施す旨と新鐵道の布設には全然經費を投せざることを聲明した、これが爲め 1925 年から 29 年に至る期間に於て 3 億ペセタ(平價にして 1 億 2,000 萬磅)の資本を新設備に投下せる製鋼業の作業は甚だしく削減されざるを得なかつた、故に昨 1932 年の製鋼工場の作業率は能力の約 35% に減し製鋼會社の財政的困難は大なるものであつた。1932 年に於て 432 件を數へた數度の罷業、所在に起る叛亂暴動並銀行の取付等の如き不安定なる國の状態は斯業の渾沌たる現状を招來したのであつた。

現時に於て最も重大なる問題の一は失業問題である。事態は公共事業に對する經費の制限に依つて益々悪化し無料食事、寄附金等を以てしては到底現状に拮抗することは出来なかつた、失業者の數は 40 萬人に達するものと見積られてゐる、失業保險の計畫さるゝものはないが然し政府は此種の保險を既に有する職工組合に對し或る金額を下附して居る。

生産高 — 銑鐵の生産高は 1929 年に於ては月平均 50,000 噸であつたが 1932 年に於ては各月共其數字の 5 割に達するものなく全年の生産高は 1929 年の 39% 位で年間の操業高爐數は 12 ケ所の工場に 20 基を算した。鐵鋼業の難局は次表に依つて看取せらる。第 1 表は過去 6 ケ年の銑鐵生産高を示す。

第1表 西班牙の銑鐵生高 (單位噸)

1913 年	445,000	1930 年	615,583
1927 年	590,467	1931 年	476,833
1928 年	556,975	1932 年(概算)	289,000
1929 年	748,936		

鋼の生産高も銑鐵とほぼ同様の率を以て減少し、昨年の生産高は 1929 年生産高の 45% に過ぎなかつた。61 の爐(轉爐 3 基、平爐 43 基、電氣爐 15 基)から 455,000 噸の鋼を生産した、之を製法別に示せば、平爐鋼 65%、轉爐鋼 33%、電氣鋼 2% の割合であつた。

第2表 西班牙の鋼生産高 (單位噸)

1913 年	314,237	1930 年	924,584
1927 年	671,020	1931 年	603,750
1928 年	777,043	1932 年(概算)	455,000
1929 年	1,003,460		

鐵鑛石 — 西班牙は鐵鑛石の生産に於ては常に世界に重要な地位を占めて居る、然し昨年の生産高は最低レコードに落ち 1880 年の生産高よりも少かつた。昨年の生産高は僅々 1,847,000 噸で 1929 年の約 30%、1913 年の 20% に過ぎない。鑛石の輸出も亦同様に割合を以て低減した、然しながら昨年の對英輸出高は前年の 840,315 噸に對し 843,000 噸に達したのは奇とすべきである、因に 1890 年の對英輸出高は 3,958,938 噸、1883 年は又 895,163 噸であつた。

第3表 西班牙鐵鑛石の生産高及輸出高

	生産高	輸出高
1913 年	9,611,668 噸	8,907,309 噸
1927 年	4,906,300	4,757,549
1928 年	5,771,207	5,421,223
1929 年	6,546,648	5,594,537
1930 年	5,517,211	3,724,261
1931 年	3,128,824	1,872,877
1932 年(概算)	1,847,000	1,245,000

尙石炭の生産高は第 4 表に示す通りであつて 1932 年の生産高は前年の 7,538,386 噸に對し約 6,866,000 噸即約 672,000 噸の減産を示した。

第4表 西班牙の石炭産額 (單位噸)

	無煙炭	瀝青炭	褐炭	合計
1928 年	389,399	5,680,115	422,504	6,792,012
1929 年	499,744	6,608,572	438,951	7,547,267
1930 年	523,575	6,596,232	388,032	7,507,839
1931 年	563,799	6,622,057	352,530	7,538,386
1932 年	564,000	6,000,000	302,000	6,866,000

(M. M. 生譯)

1932 年獨逸鐵鋼輸出入と仕向地別噸數 (單位噸)

(Iron & Coal Trades Rev. March. 17, 1933)

品 目	輸 入	輸 出
石 炭	4,203,612	18,312,449
褐 炭	1,439,384	8,728

骸炭	炭	727,093	5,188,733	
石炭ブリケット		78,669	907,148	
褐炭ブリケット		69,121	1,521,271	
鐵鑛	石	3,451,608	20,199	
滿庵鑛	石	106,779	1,564	
紫鑛	石	723,126	366,453	
黃鐵	鑛	650,789	31,832	
銑鐵	鐵	62,628	69,942	
鐵合	金	1,050	6,195	
屑		99,149	295,788	
鑄物		16,467	134,534	
ブルーム、ピレット		75,647	74,828	
バー、ゼーブ、フープ		285,132	654,502	
厚板、薄板		77,659	325,222	
鐵力板		16,944	81,759	
ロイヤール		82,711	181,308	
チュール		3,526	141,586	
軌條枕木		43,554	47,112	
車輪車軸		77	34,492	
フォードン		7,011	130,713	
構造用形鋼		1,329	23,121	
鐵道材料		5,640	7,175	
ボルト、リベット		1,285	11,118	
ワイヤー製品		1,406	62,996	
ネール		400	36,552	
其他		3,961	86,898	
鐵鋼合計		785,576	2,405,841	
機械及部分品		13,909	404,004	
	(1931年)	925,177	(1931年)	4,167,621

石炭輸入高の中 222,000 吨は英國より、913,000 吨はザールより、625,000 吨は和蘭より、294,000 吨は佛蘭西より、93,000 吨はチェコスロバキヤより、48,000 吨は波蘭より、骸炭輸入高の中 460,000 吨は和蘭より、119,000 吨は英國より、63,000 吨は白耳義より、鐵鑛輸入高の中 (括弧内は 1931 年) 1,577,700 吨は (2,802,800) 瑞典より、715,600 吨 (1,920,300) は佛蘭西より、460,100 吨 (803,600) は西班牙より、220,300 吨 (305,300) は諸威より、191,200 吨 (345,000) は英領亞米利加より、146,700 吨 (403,400) はアルゼリヤより、78,300 吨 (180,900) は希臘より、61,780 吨は其他の國より輸入せり。銑鐵輸出高の中 18,720 吨は瑞典へ、15,828 吨は白耳義へ、6,671 吨はザールへ、5,807 吨は瑞西へ、5,270 吨は芬蘭へ、屑輸出高の中 55,508 吨はザールへ、34,090 吨は奧地利へ、29,871 吨は伊太利へ、27,410 吨は英國へ、20,207 吨は瑞西へ、19,548 吨は匈牙利へ、約 18,000 吨宛西班牙、チェコ及芬蘭へ輸出せり。半製品輸出高の中 38,775 吨は英國へ、20,065 吨は露西亞へ、5,694 吨は日本へ、軌條及鐵道材料輸出高の中 9,465 吨は和蘭へ、5,126 吨は露西亞へ、4,769 吨は英領南阿へ、4,539 吨は丁抹へ、4,169 吨は瑞西へ輸出せり。ジョイスト輸高の中 49,535 吨は露西亞へ、14,562 吨は和蘭へ、バー輸出高の中 290,196 吨は露西亞へ、56,119 吨は和蘭へ、22,289 吨は佛蘭西へ、19,614 吨は日本へ、フープ輸出高の中 20,709 吨は露西亞へ、15,244 吨は英國へ、7,856 吨は和蘭へ、6,877 吨は合衆國へ、厚板輸出高の中 137,000 吨は露西亞へ輸出せるが露西亞に對しては亦 96,277 吨の中板と 16,861 吨の薄板をも輸出した。鐵力板輸出高の中 22,890 吨は日本へ、15,064 吨は和蘭へ、6,943 吨は瑞西へ、ワイヤー輸出高の中 25,762 吨は和蘭へ、21,638 吨は露西亞へ、17,280 吨はアルゼンチンへ、14,132 吨は支那へ、13,669 吨は英國へ、チューブ輸出高の中 28,484 吨は露西亞へ、13,796 吨は和蘭へ、12,225 吨は瑞西へ、9,892 吨はアルゼンチンへ、約 6,500 吨宛英國及英領印度へ輸出した。

1932 年印度の銑鐵輸出高と仕向地別噸數 (Iron & Coal Trades Rev. March 17, 1933) 1932 年下半年に於ける英領印度の銑鐵輸出高は上半期の 158,301 吨に對し 92,043 吨を算した。全年の輸出高は 1931 年の 318,994 吨及 1930 年の 502,629 吨に對し 250,349 吨に減じた。1932 年の輸出高の中 (括弧内は 1931 年) 85,332 吨 (51,600) は英國へ、8,560 吨 (14,552) は獨逸へ、103,724 吨 (157,116) は日本へ、26,978 吨 (60,121) は合衆國へ、25,755 吨 (35,305) は其他の國へ輸出した。1932 年下半年の輸出高の中對日輸出高は逐月増加し 7 月に 506 吨、8 月に 2,286 吨、9 月に 2,483 吨、10 月に 2,926 吨、11 月に 4,572 吨、12 月には 5,485 吨と逐月増加した。(M. M. 生譯)

1932 年西班牙の鐵鑛石生産高と輸出高 (Iron & Coal Trades Rev. March 17, 1933) 昨 1932 年西班牙の鐵鑛石生産高は合計 1,847,000 吨に達し (1931 年 3,190,203 吨、1913 年 9,861,668 吨) 1931 年の生産高より 40% を減じた。此の減少は著しき輸出の減少と國內消費高の低減とに起因するものである、1932 年に於ける西班牙銑鐵爐の消費高は 1931 年の 945,330 吨、1930 年の 1,199,219 吨に對し 574,000 吨に減少した。操業高爐數 20 基の作業率は能力の僅かに 30% に過ぎなかつた。1932 年の輸出高合計は 1931 年の 1,872,777 吨、1930 年の 3,724,261 吨に對し 1,245,000 吨に減少した。仕向地別噸數次の如し。括弧内は 1931 年の數字を示す。

英國へ 830,000 吨 (840,315)、和蘭へ 218,000 吨 (547,142)、獨逸へ 85,000 吨 (332,307)、佛蘭西へ 125,000 吨 (117,456)、白耳義へ 14,000 吨 (20,491)、合衆國へ 5,000 吨 (3,617)、和蘭の輸入高の一部は獨逸へ轉送された。尙 1932 年中の僱役鐵夫數は前年の 15,996 人に對し 9,374 人に減じた。(M. M. 生譯)

平爐に於ける骸炭爐瓦斯の使用に就て (Iron & Coal Trades Rev. March 10, 1933.) 獨逸製鐵業者組合の製鋼所委員會第 247 號報告 (シュタール、ウント、アイゼン誌に發表) に於て Friedrich Wesemann 博士は平爐の補助燃料として骸炭爐瓦斯の實際的利用を論ずると同時に骸炭爐瓦斯と發生爐瓦斯との混合價值に關し多數の製鋼所に於て實驗せる結果を與へて居る。報告の摘要次の如し。

從來數年間發生爐瓦斯と混じた骸炭爐瓦斯は平爐の燃料として製鋼所に使用され來つたが就中銑鐵の經濟的供給に關し位置上不利の地に在つて多量の屑を消費せねばならぬ、即ち上部シレシヤに於ける如く大量の屑を使用する而して骸炭工場が製鋼所の一部を成す所に於て特に然りである。最高能率を擧ぐる爲めには骸炭爐瓦斯は發生爐瓦斯よりも高溫度に豫熱されねばならぬことは一般に認めらるゝ所であつて同時に後者よりも發熱價值が大である、斯くの如く平爐に於ける骸炭爐瓦斯の直接及經濟的利用の途上には或る實際的難件が横はつて居る。此の目的に對する骸炭爐瓦斯利用の實際的及經濟的相對價值に關しては大いに意見の岐るゝ所がある。或る工場に於ては此の混合瓦斯を以てすれば熱管理が頗る簡單で且普遍的能率が得らるゝと主張するに反し他の工場に於ては本瓦斯使用の結果爐の耐火物を甚しく損傷するものと言つて居るが其の純粹な冶金的特質例へば生産された鋼の品質の變化に就て報告する工場は極めて少ない。平爐に於ける骸炭爐瓦斯の實際的使用に關する諸種の不鮮明な點を明かにする爲め多數の製鋼所は彼等の經驗を報告するやう要求せらるゝと同時に作業能率に及ぼす骸炭爐瓦斯混合割合の影響、熱消費高及爐の損傷等に關して實驗を行ふやう要求された。是等の

實驗は多様の混合瓦斯と標準熱とを使用して各工場廻り番で行はれたものもあつた。爐の實際上の損傷程度に關する數的論據は得られなかつた。報告を提出せる製鋼所 7、實驗度數 5 回に及んだ。能力 50 吨乃至 60 吨、爐床の幅員 32 乃至 40m² 8 乃至 35% の銑鐵を含む裝入物、熱消費吨當り 1.1 to, 1.410⁶ Kcals 瓦斯速度 5.5 to, 8.5 m. per sec. at n. T.P の 8 基の爐に對して完全なる資料が集められた。骸炭爐瓦斯の熱的要求率は 5~45% であつた。以上の資料を以てする一般的結論次の如し。

一時間當り爐の業績は骸炭爐瓦斯の使用割合を多くすることに依つては増加しない、或る場合に於ては減少を示してゐる。爐裏付の耐久性は骸炭爐瓦斯使用の結果損傷するものである。鋼 1 噸當り熱消費高は増加傾向がある。以上の結果は骸炭爐瓦斯を加ふることに依つて焔が悪影響を受くることを指示するものである。然しながら骸炭爐瓦斯の使用は瓦斯發生爐が平爐の熱要求を満たし得る場合に於ては望ましきもので其の使用を至當とする、而して本瓦斯の供給は新設備を設置するよりも費用が低廉である。骸炭瓦斯は、爐に對する供給の状態を注意深く調制しきへすれば使用の結果は良好である。速度は發生爐瓦斯を常態に使用するものよりも大であらねばならぬ、而して又比較的横斷面の小なるバーナー (burners) が使用されねばならぬ。斯くて良結果が遂行され得るものである、然しながら是等の改變は若し伸縮性を缺くとすれば、骸炭爐瓦斯を全然利用し得ざる時、而して瓦斯發生爐が比較的狹隘なるポート (ports) に依つて平常以上の瓦斯の供給を要求する場合には不利の結果を生ずるであらう。

使用し得る骸炭爐瓦斯の最高割合は未決の儘である。報告に依れば熱要求高の 50% 迄を満たすことが出来る。本瓦斯を加ふる場合には瓦斯發生爐の設備に或る改變を必要とすると同時に又發生爐瓦斯は比較的高壓力に於て放出されねばならぬ。是等の改變と其他の要素とが爐の業績と耐久性とを甚しく減ずることなく熱要求高の 50% 迄に骸炭爐瓦斯の使用を制限するものゝやうである。熱の 50% 以上を骸炭爐瓦斯に依つて供給する場合には著者はポートに於ける水冷却筒口 (nozzle) を通し高速度で冷瓦斯を供給することを勧奨する。

報告の吟味——平爐分科委員會に於ては報告の熟讀に次いで討議が行はれたが其の際 O. Schweitzer 氏は發生爐瓦斯から骸炭爐瓦斯へ平爐を轉換中に行ふた水冷却筒口を以てする實驗作業を述べる所あつた。爐に對する構造上の變更は全然行ふ所無く只發生爐瓦斯か或は又單に骸炭爐冷瓦斯の孰づれを以てしても爐が熱せられ得るやう裝置に僅かの變更を行ふたに過ぎない。此の裝置は間もなく、骸炭爐瓦斯を以てする方が結果良好なるものゝやうであつた爲め放棄せられた、而して爐の能率は發生爐瓦斯を以てする場合は主として筒口の過熱と天井裏付の甚だしい損傷とに依り低率であつた。A. Berve 氏も亦 10 乃至 45% の骸炭爐瓦斯を發生爐瓦斯に混した 50 吨爐の場合の實驗に就て述べる所あつた。結果は不満足のものであつた、氏も亦實際上の能率を得る爲めに骸炭爐瓦斯の豫熱を勧奨した。氏は骸炭爐瓦斯の割合が増加する時は瓦斯チェンバー中の溫度が降下することを發見した。

R. Back 氏は骸炭爐瓦斯と發生爐瓦斯との混合を以てせる 3 ケ月間の實驗に於て舊平爐 (over 500 melts) に於ける場合は全く満足なる結果を得たことを述べられたが新爐を以てする場合、同様結果を得るやは氏の關知せざる所であつた。骸炭爐瓦斯加熱は發生爐瓦斯を用ふる場合よりも一層經濟的であつたことは詳細なる調査に

依つて明かとなつた、又裏付の損傷程度が増加すると云ふことは少しも認められなかつた。實驗に於ては 10% の骸炭爐瓦斯が加へられたのみであつた。

T. Liesching 氏は次の如く報した。Georgs-Marien 製鋼所に於ては 10 ケ年間 10 乃至 15% の骸炭爐瓦斯を發生爐瓦斯に加へ來つたが其の結果は常に良好であつた。水冷却の筒口が用ひられた、骸炭爐瓦斯の混合割合が大なる時は良結果は得られなかつた。

(三宅譯)

歐米主要經濟界概況より拔萃 (海外經濟事情第 6 年第 17 號) (1933 年 3 月外務省通商局)

英國產業界 銑鐵需要相當あり、海外市場財政政情不安にて輸出不振に陥り、一時ストック増加せるも、其後季節的註文弗々田初め氣配強調。半製鋼は大陸品輸入杜絶し、國內需要増進。仕上鋼は輸出向照會増加せるも、磅高と大陸品軟弱にて大陸品の輸入弗々あり、國內取引鎮靜に赴けり。ドルマン・ロング及サウスダーハム・スチールアンドアイアン兩會社の合同計畫は、英國産業助成會社援助の下に略々成立を觀たり。2 月中鐵鋼產額は次の如く銑鐵は前月並昨年同月に劣るも、鋼產額は前月並昨年同月を凌駕し、熔鑄爐數も前月に比し 1 基を増加せり。(單位 1,000 噸)

	2 月	昨年同月	本年累計	昨年同期
銑鐵	271	324	558	654
鋼	483	481	927	911

綿業界は最初米綿先物上騰し、他方綿布照會増加し氣配好調なりしも、其後原綿相場反落し、又製造品に對する内外の買氣減少し、市場不振に陥れり。綿業振興を目しランカシア、テクスタイル・コーペレチーブ・ソサイティの設立目論まれ居るも、紡績聯合會は綿絲の賣行不振に顧み、復活祭に 1 週間の休日延長をなすべく會員に勧告せり。

物價並生活費及失業者數 依然物價低落の一途を辿り、24 日現在卸賣物價指數 (エコノミスト誌調査) は 59.8 にして之を 8 日現在に比すれば 0.1 ポイント、又前月 22 日現在に比すれば 0.3 ポイントの低落に當り、產業界の受くる打撃愈々深刻なるものあり、8 日下院は政府に對し物價引上を勧告せり。次に生活費指數同様低落の趨勢に在り、1 日現在生活費指數 (勞働省調査) は 139、前月に比し 2 ポイント低落せり。又失業者數は 3 月 20 日現在 277 萬 5,000 にして、土木、建築、鐵鋼、造船、羊毛工業方面に就業者増加せるを以て、1 月前に比し 7 萬 4,000 を減少、前々月に比すれば 12 萬を減ぜり。

米國產業界 事業界は依然不振を續け、製鋼會社週作業率は 1 割 4 分に低落せる事あり、銅は滯荷激増の爲休鐵問題起り、電力生産高並鐵道貨物輸送高何れも捗々しき増加を示すに至らず、2 月中自動車生産高は 10 萬 7,000 臺、前月に比し 2 萬 3,000 臺、前年同月に比し 1 萬臺を各減少せり。

東アフリカ亞鉛引鐵板需給狀況並同取扱商 (昭和 8 年 3 月 28 日附在モンバサ久我領事報告)

○最近 3 年東アフリカに於ける亞鉛引鐵板輸入統計 (單位數量噸、價額パウンド)

仕出國名	1931 年		1930 年		1929 年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
英國	4,613	63,880	6,657	103,924	9,736	166,914
ベルギー、リユクセ、ジブチ、リユクセ、ジブチ	299	4,124	20	300		

▲ケンヤ殖民地及ウガンダ保護領

(イ) 波 形

フランス	11	128	—	—	—	—
ベルギー	—	—	—	—	37	616
米 國	—	—	—	—	48	1,604
小 計	4,923	68,133	6,677	104,224	9,821	169,134
(ロ) 平 板						
英 國	361	5,434	510	8,545	255	4,783
ベルギー、リュクセン ンバーゲン經濟聯盟	8	109	—	—	—	—
ド イ ツ	—	—	20	37	—	—
ベルギー	—	—	—	—	3	36
小 計	369	5,543	530	8,582	258	4,819
合 計	5,292	73,675	7,207	112,816	10,079	173,953

▲タンガニカ委任統治領

波形又は平板

英 國	1,676	24,523	3,463	58,148	4,318	75,196
米 國	8	—	—	—	—	—
フランス	5	79	4	84	5	103
ド イ ツ	15	247	74	1,280	53	974
ベルギー	174	2,359	24	382	6	104
オランダ	10	121	—	7	3	30
ケンヤ及 ウガンダ	—	—	—	—	1	50
計	1,880	27,315	3,565	59,910	4,386	76,477

▲ザンザバル保護領 (價額單位ルーピー)

波形又は平板

英 國	280	6,647	307	54,491	408	5,600
ド イ ツ	—	8	—	—	—	—
ベルギー	94	17,742	27	5,611	—	—
イ ン ド	—	—	—	—	—	470
計	374	75,699	334	60,102	408	107,453

輸入亜鉛鐵板及用途 東アフリカ地方に輸入さるゝ亜鉛鐵板は大部分波形にして、ゲージは 20、22、24 の 3 種なるも、24 ゲージのも 90% 以上を占む。長さは 6 フィート乃至 10 フィート、波数は 8 にして間隔 3 インチなり。用途は主として屋根、倉庫、土人家屋等の建築用なり。平板のサイズは長さ 6 フィート、幅 3 フィート、ゲージは 24、26、28—3 種。尙以上波形 (24 ゲージ) は主としてザンザバル方面に於て消費さる。

商標考案上の注意事項 無し。

亜鉛引鐵板の取引方法の實際及其の商習慣 將に言ふべきもの無し。

外國品との採算上の比較 現在輸入さるゝ亜鉛鐵板は大部分英國品 24 ゲージ波形鐵板はモンバサ倉庫渡 1 噸に付 15 バウンド見當なり。

日本より輸入されたる例なきを以て比較困難なるも、關稅率は從價 10%、日本よりの運賃は 1 噸に付 18 圓 (名目上 20 圓なるも 10% 割引あり) なり。從來輸入を試みんとしたるものは多しありしも、孰れも採算合はざりし由なり。

通關上の注意事項 無し。

荷造包裝の方法 24 ゲージ波形鐵板に付其荷造包裝を述ぶるに、6 フィートのものは 14 枚 (重量 16 ボンド 7 フィートのものは 12 枚 19 ボンド、8 フィートのものは 10 枚 (22 ボント)、9 フィートのものは 9 枚 (245 ボンド)、10 フィートのものは 8 枚 (27.5 ボンド) を 1 束として、上下 2 箇所を鐵帶にて締むるのみなり。

仕入期及需要期 本品は殆ど 1 年を通じ不絶需要あり、特に需要期と稱せらるゝ時期無きも、通常 8、9、10、11 の 4 箇月は輸入期と見做さる。

販路開拓方法其他注意事項 東アフリカ地方に於て前述の通り屋根用其他建築用として亜鉛板の需要は可成大なるものあり、從來本

邦商人又はインド商人により屢々本邦品の輸入は企圖されたるも、値段の合はざると、本邦品の建値が枚建なる等の爲に未だ實現を見たることなし。又値段の點に於て有利となるも、當方面にて需要さるゝ亜鉛板が主として屋根葺用なるを以て、24 ゲージの厚物なる處、以上厚物は本邦に於て製造困難なる由に付、此點に於て著しく不利あるべきを豫想せらる。尤も英國品に對し著しく有利なる競争的値段を以てせば、以上障害に或は打撃つを得べきも、何分英國品獨占の形ある商品なるを以て、當方面市場開拓には數年間の犠牲を必要とすべし。尙前記輸入數量内には官廳筋の輸入も相當にあり、同筋にては英國品以外は一切使用せざる方針なるを以て、競争的値段を以てしても獲得しべき數量は全輸入量の 3、4 割内に限らるべし。

尙本件商品の主要消費地たるウガンダとモンバサを連絡するケンヤウガンダ鐵道は亜鉛板 20 噸以上に對しては特別割引賃率を適用し居れり。

輸入商及取扱商 次の如し。

Karimjee Dasjee, Old Kilindini Road, Mombasa	
Sharif Jiwa & Co.,	"
Fazal Dharamsi & Co.,	"
E. E. Karachiwalla,	"
Alibhai Ebhramji Dera,	"
A. A. Dar,	"
Shikh Essaji Mulla Shaiji,	"
Alibhai Kanji,	"
African Mercantile Co, Mombasa Zanzibar, and Dar es Salaam	
Karidas Kanji,	Mombasa
Karimjee Jiwanjee,	Zanzibar and Dar es Salaam
Esmaljee Jiwanjee,	" "
Jaffer Allo,	Zanzibar

(海外經濟事情 6 年 18 號)

暹羅國農務省錫鑛採掘拂申請不受理の告示廢止

(昭和 8 年 3 月 1 日附在バンコック加瀬領事代理報告)

錫鑛採掘及試掘拂の申請は、特別の場合を除くの外、之を許可せざる旨を規定せる農商務省告示 1933 年 3 月 9 日附官報を以て、公布の日より 30 日の豫告期間經過の後廢止する旨法律を以て布告されたり。

(海外經濟事情第 6 年第 18 號)

内外最近刊行誌參考記事目次

The Foundry, Feb., 1933.

- Humidity and Oil Sand Cores. A. S. Coulter. p. 13.
- Special Steel for Castings R. A. Bull. pp. 15-16.
- Science Perfects Bell Making. J. B. Nearley. p. 17.
- Control Features Steel Foundry. Frank G. Steinebach. pp. 20-22.
- Effects of Alloys in Cast Iron. R. C. Good. pp. 24-25.
- Deoxidizer for Brass Alloys. Charles Vickers. pp. 26-27.
- Handling Materials in a Brass Shop. D. G. Anderson and B. F. McAuley. pp. 28-29.
- Prevent Losses with Proper Gates and Risers. Pat Dwyer. pp. 41-42.

Metal Industry (New York), March, 1933.

- Institute of Metals Division Meeting—Abstracts of Papers on Non-Ferrous Metals. pp. 85-90.
- The Casting of Two Huge Doors in Bronze. F. H. Landolt. p. 90.
- Fluxes in Brass Melting. Werner Fröhlich. pp. 91-92.
- Sheet Metal Workers' Problems. W. B. Francis. p. 93.
- The Electrodeposition of Tungsten from Aqueous Alkaline Solution. M. Leslie Holt and Louis Kohlenberg. pp. 94-97.

The Metal Industry (London), Feb. 10, 1933.

- The Manufacture of High-class Marine Propellers. Wesley Lambert. pp. 169-172.
- Corrosion Research on Light Metals. Freeman Horn. pp. 173-176.

- Thermal Expansion of Lead. Peter Hidnert and W. T. Sweeney. pp. 177-176.
- Production of Gravity Die and Pressure Die Castings in Aluminium. C. Vaughan. pp. 179-180.
- The Metal Industry (London), Feb. 17, 1933.**
- Oil Heating Furnaces. A Correspondent. pp. 193-194.
- Non-Ferrous Metals in the Food Industry. pp. 195-196.
- Corrosion Research on Light Metals. Freeman Horn. pp. 197-199.
- The Electro-Deposition of Iron-Cobalt Alloys. (Part I.) S. Glasstone and J. C. Speakman. pp. 203-206.
- The Metal Industry (London), Feb. 24, 1933.**
- The Design of Die-Castings. F. A. W. Livermore. pp. 217-218.
- British Industries Fair—Some of the Birmingham Exhibits. pp. 219-240.
- The Metal Industry (London), March 3, 1933.**
- Office and Business Methods in the Modern Foundry. S. Howard Withey. pp. 249-250.
- British Industries Fair—Further Notes on the Heavy Sections. pp. 251-252.
- Corrosion Research on Light Metals. Freeman Horn. pp. 253-254.
- The Spraying of Metals. pp. 255-256.
- Sodium-Lead Alloys. Charles W. Stillwell and Walter K. Robinson. p. 257.
- The Electrodeposition of Iron-Cobalt Alloys. (Part II.) S. Glasstone and J. C. Speakman. pp. 259-260.
- The Effects of Mercury in Zinc Cyanide Plating Solutions. E. E. Halls. p. 261.
- Zeitschrift für Metallkunde, Feb., 1933.**
- Zur Kenntnis des Schleif- und Polier-vorganges. L. Humburger. s. 29-32.
- Über die Geschwindigkeit der Entfestigung verformter Metalle durch Erholung und Rekristallisation. F. Sauerwald und W. Globig. s. 33-38.
- Einfluss des Verformens und Anlassens auf die Wärmeausdehnungszahl des Kupfers. H. Sieglerschmidt. s. 38-42.
- Die wesentlichen Merkmale gespritzter Metallüberzüge. H. Reininger. s. 42-44.
- Über die Einwirkung von alkoholhaltigen Treibstoffen auf Aluminium und Aluminiumlegierungen. O. Bauer und G. Schikorr. s. 44.
- Über die Glühbehandlungen von Metallbändern im Durchziehofen. O. Junker. s. 45-49.
- Heat Treating and Forging.**
- Feb.—July, 1933. (若林)
- Steel, March 20, 1933.**
- Practical Application of Induction Heating to Solids—II. E. F. Northrup. pp. 23-26.
- Improving Open-Hearth Furnace Design. Part IV. William C. Buell. pp. 29-31.
- Steel, March 27, 1933.**
- Fabricating and Finishing Metal Stamped Ware. J. B. Nealey. pp. 21-23.
- Wire Rope Sockets are Drop Forged to Finished Size. T. J. Black. p. 27.
- Improving Open-Hearth Furnace Design. Part V. Open-Hearth Furnace Lines. William C. Buell. pp. 28-30.
- Steel, April 3, 1933.**
- Improving Open-Hearth Furnace Design. Part V. Open-Hearth Furnace Lines. William C. Buell. pp. 29-32.
- Steel, April 10, 1933.**
- Meet Mooring Mast Requirements with Alloy Steel and Welding. A. E. Gibson. pp. 21-23.
- Improving Open-Hearth Furnace Design. Part V. Open-Hearth Furnace Lines. William C. Buell. pp. 25-26.
- The Iron Age, March 16, 1933.**
- Effect of Zirconium in White Iron Mixtures. F. B. Riggan and H. C. Aufderhaar. pp. 426-427.
- An Insulating Refractory for Heating Furnaces. p. 433.
- Atomic Hydrogen Welding. M. W. Brewster. p. 434.
- The Iron Age, March 23, 1933.**
- Welding in the Steel Industry. William H. Warren. pp. 464-465.
- Mass Production Methods for Malleable Castings. Herbert R. Simonds. pp. 466-467.
- The Iron Age, March 30, 1933.**
- Rustless Steels Employed in Fan Construction. M. S. Kice. p. 507.
- Manufacture and Heat Treating of Twist Drills. J. B. Nealey. pp. 508-509.
- Progressive Die Used on Dieing Machine.
- The Iron Age, April 6, 1933.**
- Use of All-Helical Gear Transmission Burnham Finney. pp. 535-537.
- Copper Hydrogen Welding on Production Basis. W. W. Anderson. pp. 538-539.
- Making Steel of a Uniform Quality Lewis B. Lindemuth. pp. 540-541.
- Rustless Steel Employed in Fan Construction. M. S. Kice. pp. 542-543.
- Blast Furnace and Steel Plant, March, 1933.**
- Composition and Deoxidation of Iron Oxide Sinters. T. L. Joseph. pp. 147-150.
- Finishing the Heat of Steel. J. H. Hruska. pp. 151-153.
- The Trend of Rolling Mill Design. E. L. Williams. pp. 154-156.
- Blast Furnace Smelting Practice. A. J. John Macdonald. pp. 157-158.
- Steel Used in Racing Automobiles. J. W. Urguhart. pp. 159-160.
- Welding as a Maintenance Tool. E. L. Quinn. pp. 161-164.
- High Temperature Steam Piping. pp. 165-166.
- Iron and Steel Industry, March, 1933.**
- The Construction of Cupola Furnaces in Europe. M. Steyer. pp. 203-204.
- The Influence of Mo, W and Ti on Cast Iron. J. E. Hurst. pp. 205-208.
- Ideal Fuel Consumption in the Production of Steel. K. R. Binks. pp. 211-213.
- Notes on American Practice. p. 214.
- Working in Stainless Steels. F. Leverick. pp. 215-218.
- Alloy Cast Iron in Automobile Constructions. A. B. Everest. pp. 219-223.
- Notes on Continental Practice. p. 224.
- The Open-Hearth Furnace for Steel Casting Production. p. 225.
- Jour. of the Am. Welding Society, Feb. 1933.**
- Economic Advantages of Welded Piping in Homes. F. J. Maeurer. pp. 4-6.
- A Special River-Sea Bulk Cargo Arc-Welded Ship. F. D. Wahl and H. E. Johns. pp. 7-9.
- Welding in the Construction of Naval Aircraft. E. D. Clepton. pp. 9-10.
- Welded Steel Pipe-Line of the Panther Valley Water Company. F. Gannett. pp. 11-12.
- Welding of Pressure Vessels. pp. 13-14.
- Chrome Nickel Steel Riser Cutting. R. B. Aitchison. pp. 17-18.
- Some Economic Aspects of Welding Aluminum. D. E. Roberts. pp. 18-20.
- Welding with Copper Alloy. G. T. Piersol. pp. 22-24.
- Jour. of the Am. Welding Society, March, 1933.**
- Abstracts from Paper on Tests of Cellular Sheet-Steel Flooring. J. M. Frankland. pp. 4-11.
- Arc Welding is Penetrating New Construction Fields. B. Ferguson. pp. 12-13.
- Maintenance of Equipment by the Oxyacetylene Method. L. H. Scheifele. pp. 15-17.
- Die Giesserei, 17. Feb. 1933.**
- Ueber Versuche mit dem norwegischen Vanadin-Titan-Roh Eisen. E. Piwowarsky. s. 61-63.
- Ein neues Verfahren der Gutzseisenprüfung. E. H. Bernhard Osann. s. 63-65.
- Beitrag zur Frage der Spielraumgebung für das Kerneinlegen (Kerntoleranzen). F. Brobeck. s. 65-71.
- Die Giesserei, 3. März, 1933.**
- Ergebnisse der Korrosionsforschung und neuere Verfahren zur Prüfung von Werkstoffen auf Beständigkeit gegen Korrosion und Erosion. W. Denecke. s. 89-93.
- Neuzeitliche Formmaschinen. s. 94-96.
- Die Giesserei, 17. März, 1933.**
- Quasiisotropie im Gusseisen. Hans Pinst. s. 105-108.
- Grosses Kolloquium des Aachener Giessereiinstituts. s. 111-115.
- Die Giesserei, 31. März, 1933.**
- Einguss technik. J. Petin. s. 125-127.
- Giesserei und Staublunge. L. Czimatis. s. 127-130.
- Grosses Kolloquium des Aachener Giessereiinstituts. s. 131-134.
- Foundry Trade Jour., March 9, 1933.**
- Sand Testing in the Foundry. W. Y. Buchanan. pp. 171-173.
- Making a Chemical Pan. H. Meadowcroft. p. 176.

Phosphorus in Low Total Carbon Cast Irons. pp. 177-178.
Foundry Trade Jour., March 16, 1933.

Sand Testing in the Foundry. W. Y. Buchanan. pp. 191-192.

Analysis of B. C. I. R. A. Test by Form-Factor Method. A. C. Vivian. pp. 193-195

Foundry Trade Jour., March 23, 1933.

The Wear of Cast Iron. F. K. Neath. pp. 203-205.

Making a Large Ingot Mould. J. Roxburgh. pp. 206-207.

Refractories. J. C. Green. pp. 208-209.

Cupola Control—Its Progress, Practice, and Value in the Iron Foundry.

Heat Losses from Furnace Walls. pp. 212-213.

Stahl und Eisen, 9. März, 1933.

Neuerungen an Führungskasten für Walzwerke. H. Cramer. s. 241-243.

Beiträge zur Kenntnis der Mechanischen Eigenschaften grösster Schmiedestücke. E. Maurer und H. Korschan. s. 243-251.

Stahl und Eisen, 16. März, 1933.

Entwicklungslinien der Walzenstrassen. J. Puppe. s. 265-270.

Beiträge zur Kenntnis der mechanischen Eigenschaften grösster Schmiedestücke. E. Mauer und H. Korschan. s. 271-281.

Stahl und Eisen, 6. April, 1933.

Spannungsverteilung und Werkstofffluss im Walzspalt. W. Lueg. s. 346-358.

Archiv für das Eisenhüttenwesen, Feb. 1933.

Die physikalisch-chemischen Grundgesetze der Metall-Schlacken-Gleichgewichte. F. Körber und W. Oelsen. s. 307-314.

Anpassung der Energiewirtschaft der Hüttenwerke an schlechte Beschäftigung. B. Sothen. s. 315-320.

Die Analyse der trockenen Verbrennungsgase als Unterlage für feuerungstechnische Berechnungen. H. Schwiedessen. s. 321-326.

Die Bestimmung der Feuchtigkeit in Koks. C. Holthaus. s. 327-333.

Zusammenhang zwischen Wärmespannungen und Festigkeitseigenschaften von Stahl. H. Buchholtz und H. Bühler. s. 335-340.

Herstellung schlackenbeständiger Geräte aus Magnesia und Tonerde.

Einfluss der α - γ -Umwandlung eines irreversiblen Nickelstahls auf Kristallorientierung und Zugfestigkeit. G. Wassermann. s. 347-351.

Archiv für das Eisenhüttenwesen, Jan. 1933.

Der Einfluss des Wassergehaltes der Kohle auf den Wärmeverbrauch für ihre Verkokung. K. Baum. s. 264-269.

Untersuchung über den Wärmeaustausch in Stossöfen. H. Stoffregen. s. 271-276.

Ermittlung von Eigenspannungen durch Messung von Bohrloch-Verformungen. J. Mather. s. 277-281.

Zusammenwirken von Wärme- und Umwandlungsspannungen in abgeschreckten Stählen. H. Bühler und E. Scheil. s. 283-288.

Wärmeinhalt einiger Metalle, Legierungen und Schlackenbildner bei Temperaturen bis 1200°. R. Averdick und W. Grass. s. 289-292.

Sichtbarmachung des Primärgefüges der Stähle durch Zusatz von Radioaktiven Thorium. B. G. Tamman und G. Bandel.

The Foundry, March, 1933.

Temperature Affects Molding Sand. Sixten O. V. Nilsson. pp. 10-12.

Oxygen in Acid Electric Steel. Henry D. Phillips. pp. 13-14.

Heat Treating Gray Iron Castings. John W. Bolton. pp. 19-20.

Cupola Practice for Malleable Iron. Herbert H. Farr. pp. 24-25.

Figuring Melting Cost of Iron. J. Rowbottom. p. 36.

Prevent Losses with Proper Gates and Risers. Pat Dwyer. pp. 38-42.

The Metal Industry (London), March 10, 1933.

Native Wire Silver—Notes on its Formation and Possible Significance. C. B. E. Douglas. pp. 273-275.

Institute of Metals—Annual General Meeting. pp. 277-280

Corrosion Research on Light Metals. Freeman Horn. pp. 281-282.

The Metal Industry (London), March 17, 1933.

Aluminium Bronze. F. Hudson. pp. 297-299.

Institute of Metals—Discussion on Tellurium-Lead. pp. 300-303.

Institute of Metals—Abstract of Second Day's Paper. pp. 303-304.

Electrodepositors' Technical Society—Discussion on the Testing of Metallic Deposits. pp. 307-309.

The Control of Electrodepositing Solutions. No. XIV.—The Cadmium Solution. Samuel Field. pp. 309-310.

The Metal Industry (London), March 24, 1933.

Bauxite. F. A. W. Livermore. pp. 321-322.

Modern Light Alloys with Particular Reference to Corrosion. L. Aitchison. pp. 323-324.

Aluminium Bronze. F. Hudson. pp. 327-330.

Spectrographic Analysis. pp. 331-332.

The Metal Industry (London), March 31, 1933.

Silver and its Uses in Chemical Plant. pp. 245-246.

Notes on Hack Sawing. H. Bentley. pp. 346-347.

Crystal Structure of Precipitated Copper-Tin Alloys. H. Kersten and Joseph Maas. p. 348.

Aluminium Bronze. F. Hudson. pp. 349-352.

The Plating of Zinc and Zinc Brase Die-Castings. L. wright and F. Taylor. pp. 355-358.

Zeitschrift für Metallkunde, März, 1933.

Studien am Dreistoffsystem Silber-Kupfer-Nickel. W. Guertler und A. Bergmann. s. 53-57.

Zur Kenntnis des Schleif- und Polier-Vorganges. L. Hamburger. s. 58-62.

Über die Umwandlung von Kobalteinkristallen. U. Dehlinger, E. Osswald und H. Bumm. s. 62-63.

Über die Form und Struktur des Bleischrots. G. Tamman und K. L. Dreyer. s. 64.

Gasgehalte in Aluminiumgusslegierungen. H. Nipper. s. 65-67.

Das Warmpressen von Hartmessing Ms 58. R. Hinzmann. s. 67-70.

Die wesentlichen Merkmale gespritzten Metallüberzüge. H. Reininger. s. 71-73.

Einige Bemerkungen zur Frage der quantitativen Spektralanalyse. O. Feussner. s. 73-75.

(若 林)

鑄物 第5卷 昭和8年3月

耐壓砲金鑄物に金型の應用に就て 鐵道省鷹取工場 p. 135

廻型模型の軸及軸承の改良に就て 海軍艦政本部 p. 48

鑄鐵及青銅鑄物の電氣銲接(2) 佐々木新太郎 p. 154

鑄物の反りに就て 川端 駿吾 p. 150

電氣評論 第21卷 第3號 昭和8年3月10日

CO₂ メータニ就て 上西 亮二 p. 265

クローム酸溶液より金屬クロームを電解析離する方法の研究 大藪幸太郎 p. 285

研究報告 第6號 住友伸銅鋼管株式會社

罐管及過熱器管の材質的研究 絹川武良司 p. 347

海外經濟事情 第6年 第11號 昭和8年3月20日

最近英國鐵鋼界概況(昭和8年1月24日附在ロンドン松山商務參事官報告) p. 31

ルーマニア國石油業概況 1932年(昭和8年1月27日附在ルーマニア水野臨時代理公使報告)

イタリー國工業改造協會の定款(昭和3年2月3日附在ムラン井上領事報告)

採鑄冶金月報 第11年 第3報

北米合衆國の産業不振に就て 渡邊 俊雄 p. 51

伊太利の鐵工業 澤村 宏 p. 53

坑内爆發跡に見出さるゝ爆發せる炭塵の性質に就て

杉原 英三 p. 61

電氣製鋼 第9卷 第3號 昭和8年3月15日

鋼中の非金屬夾雜物 A. B. C. 生 p. 1

鑄鐵の性質に及す少量のクロムの影響に就て

金友 濤聲 p. 113

砂型鑄込の鋼塊に起る不均一性

野田 一六 p. 121

東京工業大學々報 第2巻 第3號

アルミ酸カルシウムの研究 (第3報) 水和作用の

顯微鏡的研究

近藤清治、山内俊吾 p. 162

炭酸カルシウムの炭酸瓦斯氣流中の加熱變化 (第2報)

氷洲石の第1及び第2分解點 松井元太郎外2名 p. 186

硝酸蒼鉛の乾燥空氣氣流中の加熱變化

松井元太郎外2名 p. 193

鑄物 第5巻 第4號 昭和8年4月

耐壓砲金鑄物に金型の應用に就て 鐵道省鷹取工場 p. 205

鑄鐵及青銅鑄物の電氣銲接 佐々木新太郎 p. 215

英國に於ける主なる鑄物工場の設備に就て

森 重侯 p. 228

北海道石炭鑛業會々報 第223號 昭和8年3月25日

幌内層の研究より得たる北海道中央山脈西部に沿ふ

新第3紀層論 (下) 村田 析 p. 1

炭田に於ける試錐法 (一) 花江良太郎 p. 23

機械採炭法 日野 神兒 p. 29

朝鮮鑛業會誌 第16巻 第1號 昭和8年3月15日

朝鮮に於ける金鑛脈の分類と硫砒鐵鑛 (概報)

素木 卓三 p. 1

朝鮮産金鑛の二三の性質と其の處理法に就て

石川 留吉 p. 14

將來に於ける世界鑛産中心地の變遷に就て

内田鯤五郎 p. 57

東亞經濟調查局編

銀及銀價低落の研究 社團法人東亞經濟調查局

滿洲技術協會誌 第10巻 第54號 昭和8年3月

金屬マグネシウム製鍊工業 萩谷 正己 p. 101

ボーキサイトと礬土頁岩 坂本 峻雄 p. 129

一般電氣探鑛法に就て 木原 二壯 p. 143

建築雜誌 第47輯 第569號 昭和8年度

電氣銲接施工難易度及び接合型式が強度に及ぼす影響

谷口 忠 p. 79

銲接繼手の實驗 仲 威雄 p. 101

日本鑛業會誌 第49巻 第575號 昭和8年3月

彈性波探鑛法の原理と其應用 青山秀三郎外3名 p. 131

楕圓形水平坑道の周圍に於ける地壓 杉原 武徳 p. 147

ニッケル及モネルメタルの探鑛と製鍊 藤原 唯義 p. 165

石炭時報 第8巻 第4號 昭和8年4月5日

茅炭炭礦の石炭索道運搬に就て K O 生 p. 2

石炭及煉炭の試料採取に就て 松波 秀利 p. 10

高爐用炭炭に就て 伊能 泰治 p. 30

研究報告 昭和8年3月 三菱航空機株式會社

鋼の可鍛性について 石澤命知、足形康夫 p. 1

クロム、モリブデン鋼鋼に就て 菊池省吾、關口次郎 p. 12

Y-合金鍛造ピストン (補遺) 池田 傳 p. 27

金屬 第3巻 第3號 昭和8年3月

日滿製鐵業の關係 齋藤 大吉 p. 96

設計者に對する鑄物工場よりの註文 瀬戸 靜夫 p. 100

燃料協會誌 第126號 第12年3月號

最近成立せる石炭の販賣統制に就て 桑村剛次郎 p. 225

駿工 第9巻 第3號 昭和8年3月1日

Electrodes 及 Arc Welding 工費について

山下芳太郎 p. 8

金屬の研究 第10巻 第3號 昭和8年3月

四元系平衡狀態圖に就て (第2報) 武田 修三 p. 1

歐米各國製安全剃刀のブレードの切味測定

山本 正一 p. 103

高温度に於ける鐵鑛石並に耐火爐材の瓦斯通氣率に就て

田所 芳秋 p. 108

日本ニッケル時報 Vol. 1. No. 1.

佛蘭西に於けるニッケルの研究

ドクトル レオン、ギエー p. 4

亞米利加のニッケル工業と學術的研究の發達に關する所感

加茂 正雄 p. 10

日本ニッケル貨幣の歴史

小松原久吉 p. 24

防彈合金の研究

本多光太郎 p. 17

合金鑄鐵製チルドロールの研究

谷口 光平 p. 28

燃料研究所研究報告 第15號

石炭油化の研究 其の一 油化廢瓦斯より水素の回收

竹中 寛

銲接協會誌 第3巻 第2號 昭和8年4月

被覆劑中より銲着金屬に含有される合金元素

(C, Si, Mn) の量に就て 岡田實、藤原弘 p. 57

軟鋼の電氣銲接と其應用に就て 氏家竹次郎 p. 70

採鑛冶金月報 第11年 第4報

伊太利の製鐵工業 澤村 宏 p. 78

錫鑛の濕式製鍊 野滿 朝亮 p. 85

電氣學會雜誌 第53巻 第4冊 昭和8年4月

電氣銲接と鋼構造物 青木 楠男 p. 287

九州鑛山學會誌 第3巻 第6號 昭和8年3月31日

洞岡洗炭工場建設に就て 毛利 英熊 p. 1

坑内に施設せる電氣軌道に就て 廣松 常茂 p. 11

金屬 Vol. III—No. 4

日滿製鐵業の關係 齋藤 大吉 p. 138

設計者に對する鑄物工場よりの註文 瀬戸 靜夫 p. 144

造機造船用金屬材料の最近の趨勢 佐々木新太郎 p. 148

海外經濟事情 第6年 第15號 昭和8年4月17日

本邦對諸外國貿易概況 (カナダ、チリー) p. 1

諸外國貿易概況 (アルゼンチン、バンコック港

マドラス省、ケンヤ、ウガンダ) p. 36

歐洲大陸鐵鋼各シンデケートの近況 (昭和8年

2月27日附在英松山商務參事官報告) p. 57

東京工業大學々報 第2巻 第4號 昭和8年4月

一、二の特殊鋼の A₁ 點以外の焼入による時效硬化

山田良之助外3名 p. 226

マグネシア耐火物に就て (第1報) 南滿洲産マグ

ネサイト焼火物の微構造 近藤清治外2名 p. 251

電氣製鋼 第9巻 第4號 昭和8年4月15日

高温度に於ける鋼の酸化並に成生酸化物の性質に就て

金友 濤聲 p. 1

鐵鋼に及す瓦斯の影響	南波 伸尙 p. 158	高佳素耐酸鑄鐵	多賀谷正義 p. 54
水曜會誌 第8卷 第1號 昭和8年4月1日		Single Cast piston ring の鑄造に就て	清水 樽治 p. 60
流電々位探鑛法に用ふる電極に就て	藤田 義象 p. 33	金屬の研究 第10卷 第4號 昭和8年4月	
關稅と工業	淺田 長平 p. 49	マグネシウム及びその合金の電氣抵抗に就て	
金屬の酸化と其脱酸に就て	西村 秀雄 p. 55	高橋清、技和三郎 p. 1	
鞍山鐵鑛磁化焙燒法の研究	梅根常三郎 p. 163	青銅狀態圖の研究	濱住松二郎 p. 137
水道協會雜誌 第4號 昭和8年5月1日		高滿俺大洲田鋼の加熱による組織及性質の變化	
水道鐵管の震害に對する一考察	岩崎 瑩吉 p. 46	に及ぼす炭素の影響	村上武次郎、矢島忠和 p. 148
地震に由る水道鐵管の被害	今村 明恒 p. 57	軟鋼の水溶液中に於ける腐蝕に及ぼす光の影響	
機械工学 4月號 Vol. I No. 2		に就いて	遠藤彦造、關口春次郎 p. 166
造船界に於ける電氣銲接應用の趨勢	氏家竹次郎 p. 50		

昭和8年外國銑輸入高(單位噸)

(銑鐵共同販賣會社)

月次	輸 出 國 名					計
	印 度	英 國	獨 逸	米 國	瑞 典	
1	2,450	51	—	—	—	2,501
2	5,052	406	—	—	—	5,458
3	11,338	—	—	—	—	11,338
計	18,840	457	—	—	—	19,297

昭和8年2月中重要生産月報拔萃(商工大臣官房統計課)

		2 月 中	前 月	前年同月	1 月 以 降 累 計	
					昭 和 8 年	昭 和 7 年
金	(gr)	983,566	1,002,098	988,789	1,985,664	1,934,080
銀	(gr)	12,953,101	13,030,225	12,510,551	25,983,326	24,897,000
銅	(kg)	5,478,634	5,620,757	6,101,764	11,099,391	12,009,975
硫	(tons)	7,043	7,543	4,944	14,586	10,117
石	(tons)	2,299,055	2,227,385	2,132,761	4,526,440	4,361,141
油(原油)	(100l)	167,710	192,026	205,077	359,736	427,864
セメント	(tons)	336,781	366,897	285,924	703,678	572,486
× 燐 酸 石 灰	(%)	99,181	103,276	99,027	202,457	191,254
過 硫	(%)	44,088	51,483	59,173	95,571	120,516

主要製鐵所に於ける鐵鋼材生産表(單位噸)

(商工省鑛山局)

—減

品 目	3 月 分			一 月 以 降 累 計			
	昭 和 8 年	昭 和 7 年	比較増減	昭 和 8 年	昭 和 7 年	比較増減	%
銑 鐵 { 内地 朝鮮	121,108	103,831	17,277	333,701	284,630	49,081	17
滿 洲 鋼 片	39,372	30,466	8,906	113,054	87,126	25,928	30
普 通 鋼 材	259,945	198,399	61,546	713,331	527,679	185,652	35
販 賣 向 鋼 材	7,080	6,113	967	36,286	14,272	22,014	33
シ ー ト	12,428	14,530	-2,102	37,736	35,637	2,099	6
鍛 造 鋼 材	4,391	1,982	2,409	10,771	4,680	6,091	130
普 通 鋼 壓 延 鋼 材	212,354	163,124	49,230	574,297	458,399	115,898	25
普 通 鋼 壓 延 鋼 材 内 譯							
厚 0.7 mm 以下鋼板	29,075	27,681	1,394	76,177	74,164	2,012	3
他 鋼 板	44,319	22,977	21,342	111,695	67,836	43,859	65
鋼 條	52,901	41,158	11,743	145,594	122,280	23,314	19
軌 道 鋼 材	29,384	20,560	8,824	84,825	67,171	17,654	26
鋼 管	19,091	20,189	-1,098	55,761	46,922	8,839	19
其 他	23,100	20,279	2,821	36,194	53,187	10,007	19
鋼 材	11,648	8,689	2,959	29,094	22,482	6,612	29
其 他	2,836	1,591	1,345	7,957	4,357	3,600	83